

決算説明資料 2026年3月期第1四半期

2025年8月14日

1-①. 連結PL < 当期・前期 >

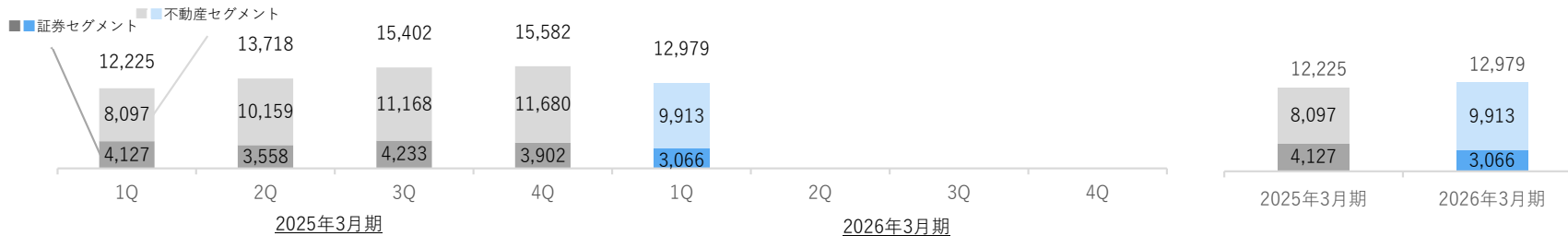
- ▶ 証券セグメントのトレーディング損益等が減少した一方で、不動産セグメントの販売戸数が増加、営業収益は前年同期比6.2%増
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比5.3%の減益

※当子会社のあかつき証券(株)は外貨建て預金の運用収益の計上区分を営業外収益から営業収益に変更いたしました。この変更は2025年3月期に遡及適用しており、その結果、証券セグメントの営業収益が遡及適用前と比較し、増加しております。
増加額は、1Q：104百万円、2Q：109百万円、3Q：116百万円、4Q：114百万円となっております。

第1四半期

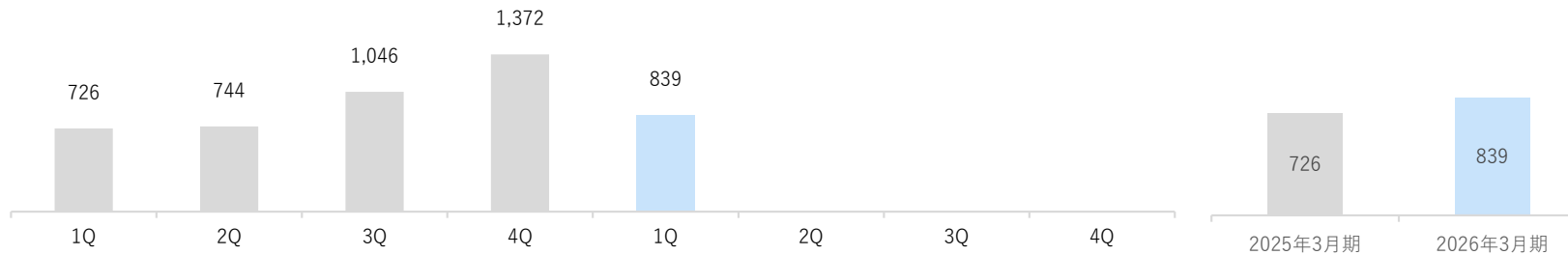
■ 営業収益 連結消去後（単位：百万円） （外部顧客に対するもの）

四半期推移
（四半期会計期間毎の推移）



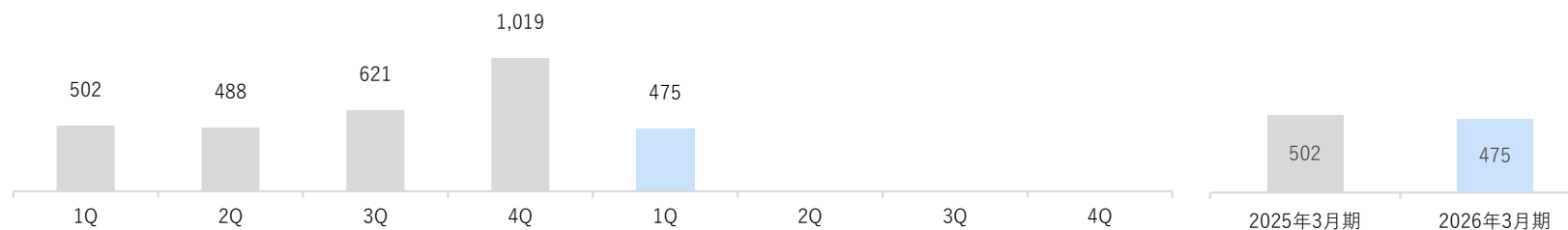
営業収益
6.2%増
（前年同期比）

■ 経常利益（単位：百万円）



経常利益
15.6%増
（前年同期比）

■ 親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益（単位：百万円）

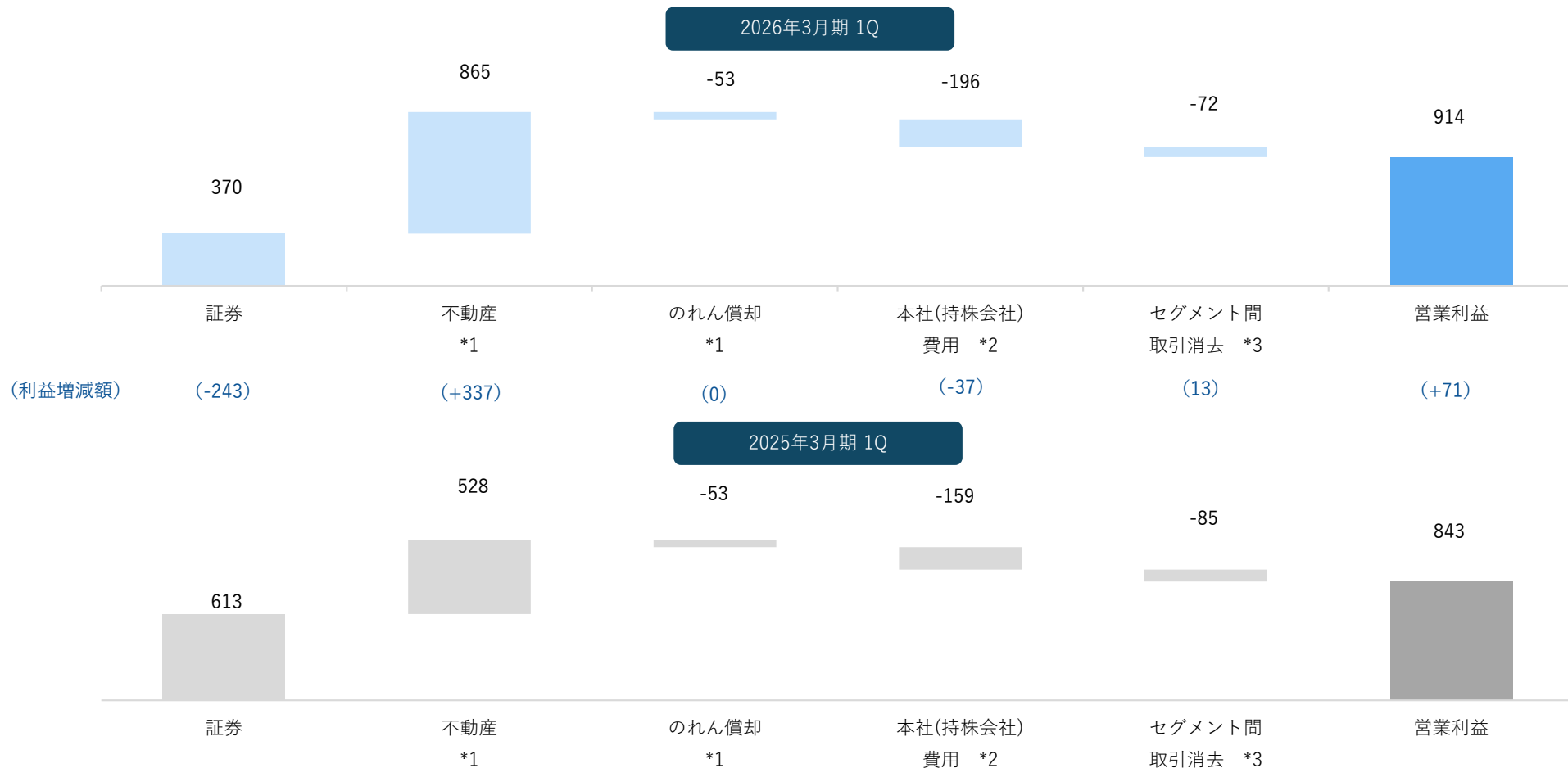


親会社株主利益
5.3%減
（前年同期比）

1-②. セグメント情報 <営業利益>

- ▶ 連結営業利益は8.3%増の914百万円。
- ▶ 証券セグメントは、債券等のトレーディング損益が減少し、減益となりました。
- ▶ 不動産セグメントは、中古マンションの買取再販ビジネスにおいて、販売戸数が増加し、増益となりました。

※当社子会社のあかつき証券(株)は外貨建て預金の運用収益を従来、営業外収益に計上していましたが、当第1四半期連結会計期間より、営業収益に計上することとしました。
この変更は遡及適用しており、その結果、2025年3月期1Qの証券セグメントの営業利益が、遡及適用前と比較し104百万円増加しております。



*1 不動産セグメントに含まれるのれん償却額は「のれん償却」として別掲表示

*2 本社(持株会社)費用は上場維持・グループ管理などの経費

*3 セグメント間取引は主に、当社及びあかつき証券との社債関連手数料の消去

2. 連結BS

- ▶ 総資産は14,199百万円増加
 - 販売用不動産+3,646百万円、差入保証金+1,289百万円、現金及び預金+3,779百万円、預託金+5,600百万円、信用取引貸付金△902百万円
- ▶ 負債は14,261百万円増加
 - 預り金+11,089万円、短期借入金*+2,241百万円、ノンリコース1年内返済予定長期借入金+925百万円、ノンリコース長期借入金△487百万円
- ▶ 純資産は61百万円減少
 - 非支配株主持分+10百万円、利益剰余金△69百万円

	2025年 3月31日	2025年 6月30日	増減
流動資産	84,874	99,195	+14,321
現預金	19,451	23,231	+3,779
預託金	23,800	29,400	+5,600
販売用不動産	31,338	34,984	+3,646
固定資産	7,161	7,039	△121
のれん	699	645	△53
投資有価証券	3,772	3,819	+47
総資産	92,035	106,235	+14,199

	2025年 3月31日	2025年 6月30日	増減
流動負債	60,565	75,054	+14,489
預り金	22,479	33,568	+11,089
短期社債	7,000	7,000	+0
短期借入金*	25,219	27,461	+2,241
固定負債	12,561	12,333	△227
純資産	18,853	18,791	△61
株主資本	17,810	17,741	△69
負債・純資産	92,035	106,235	+14,199

- 短期借入金と1年内返済予定の長期借入金の合計

3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ>

▶ 2025年6月末の預り資産残高は6,789億円、うち金融商品仲介サービス部門は4,241億円



注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています。

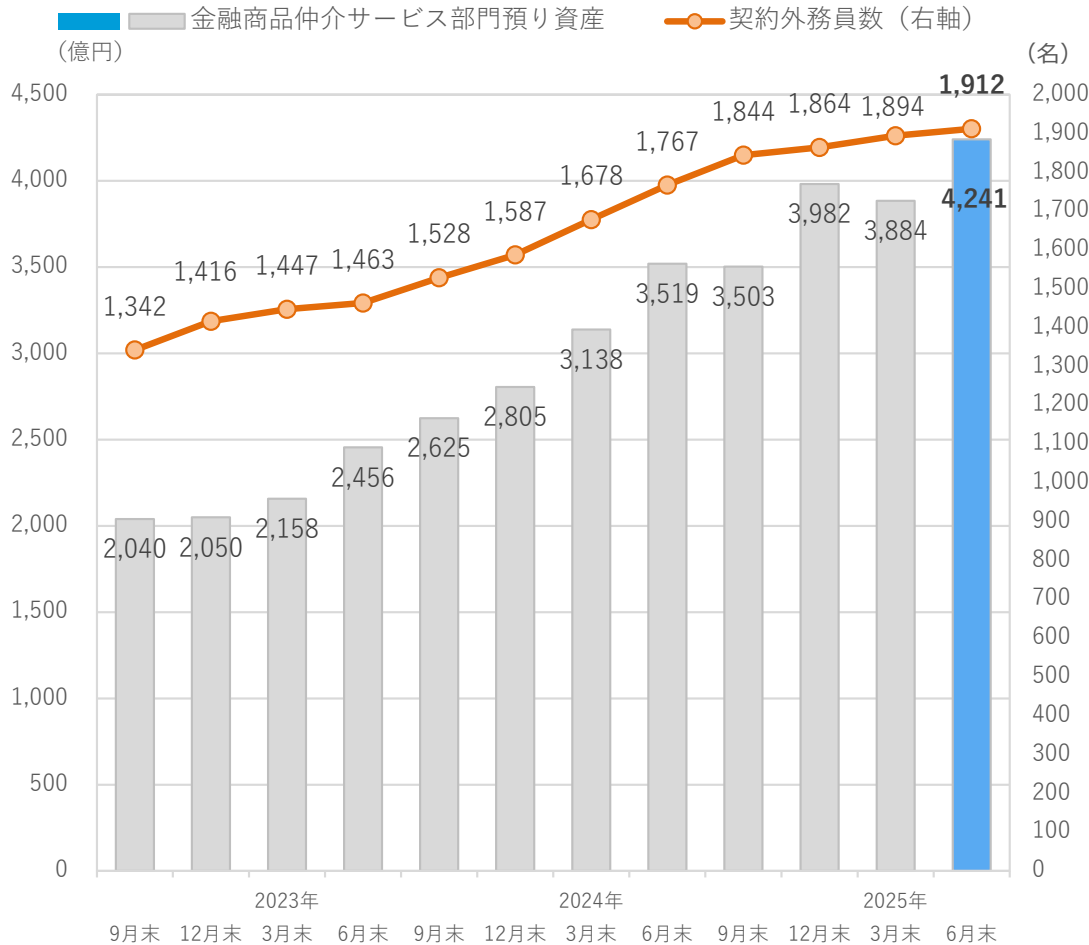
2024年4月付の組織改編、組織名称変更に伴い、「リテール部門」を「ウェルスマネジメント部門」、「IFA部門」を「金融商品仲介サービス部門」に変更し、部門間の内訳について、過去に遡及し本変更を反映しております。

3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ>

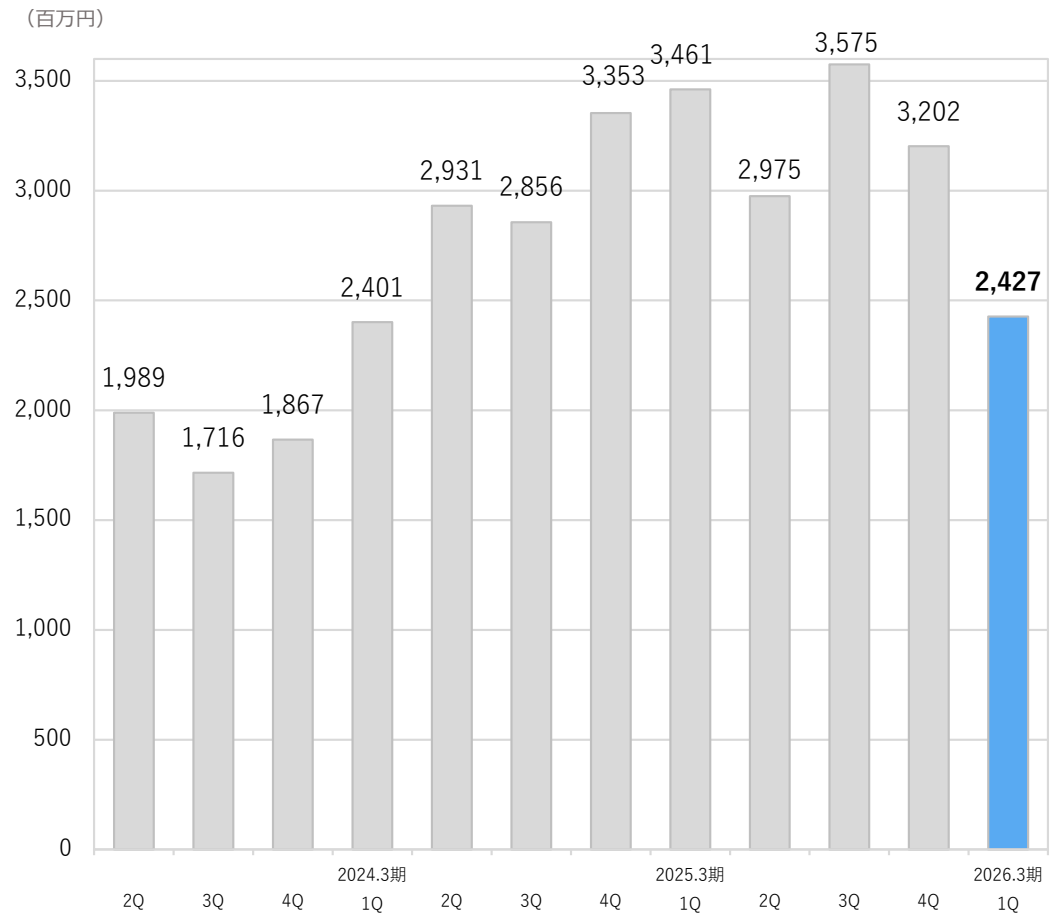
- ▶ 金融商品仲介サービス部門の預り資産は4,241億円、契約仲介業者外務員数は1,912人
- ▶ 金融商品仲介サービス部門の純営業収益は当四半期（2025年4～6月）に2,427百万円

※当子会社のあかつき証券(株)は外貨建て預金の運用収益の計上区分を営業外収益から営業収益に変更いたしました。この変更は2025年3月期に遡及適用しており、その結果、純営業収益が遡及適用前と比較し、増加しております。
増加額は、1Q：95百万円、2Q：101百万円、3Q：109百万円、4Q：96百万円となっております。

金融商品仲介サービス部門の預り資産残高・契約外務員数の推移



金融商品仲介サービス部門の純営業収益の推移



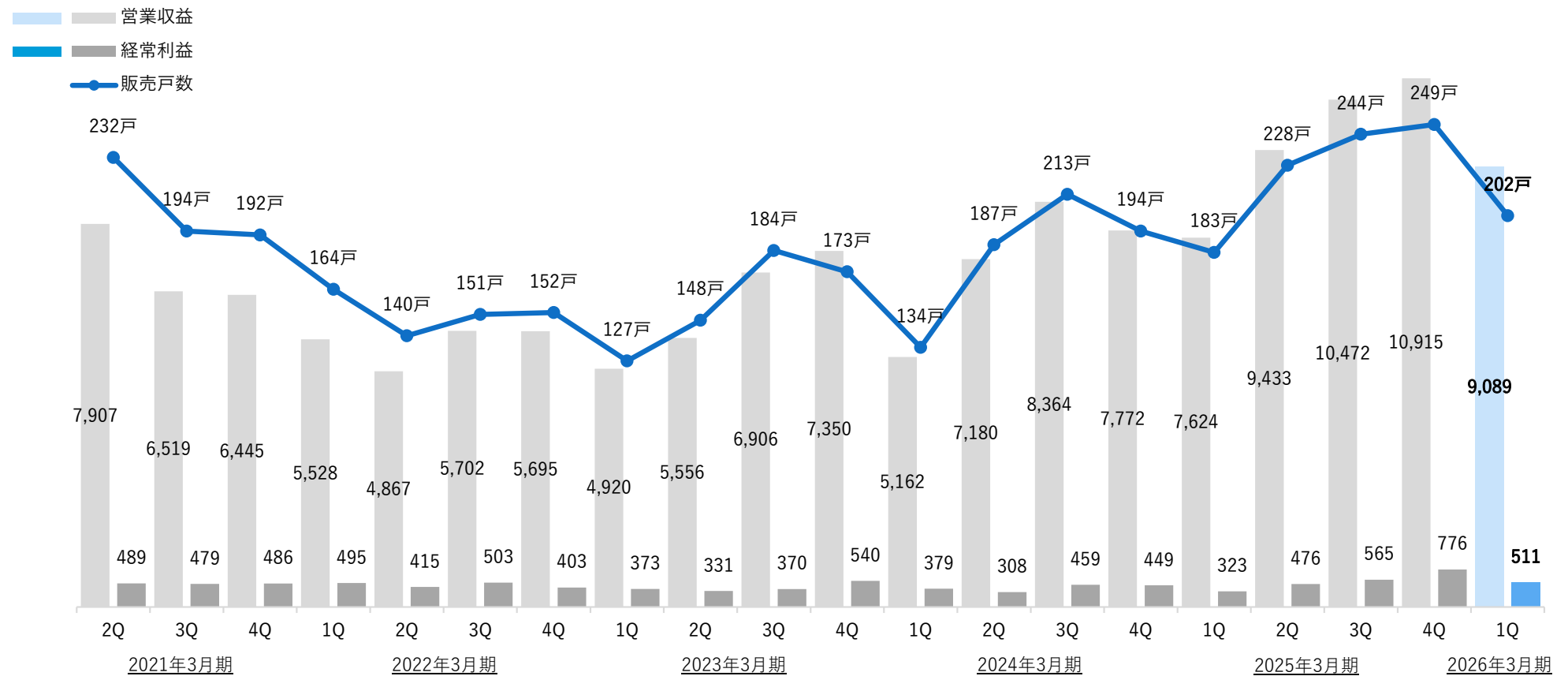
注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっております。

2024年4月付の組織改編、組織名称変更に伴い、「リテール部門」を「ウェルスマネジメント部門」、「IFA部門」を「金融商品仲介サービス部門」に変更し、部門間の内訳について、過去に遡及し本変更を反映しております。

3-②. 不動産セグメント <マイプレイス> ー中古マンション買取再販事業ー

▶ 第1四半期（4月～6月）は営業収益9,089百万円(前年同期比+1,464百万円)、経常利益511百万円(前年同期比+188百万円)

営業収益・経常利益・販売戸数の四半期推移



3-②. 不動産セグメント <マイプレイス> ー中古マンション買取再販事業ー

▶ 当四半期の仕入戸数は、タイプA 195戸・タイプB 35戸

▶ 販売戸数は202戸

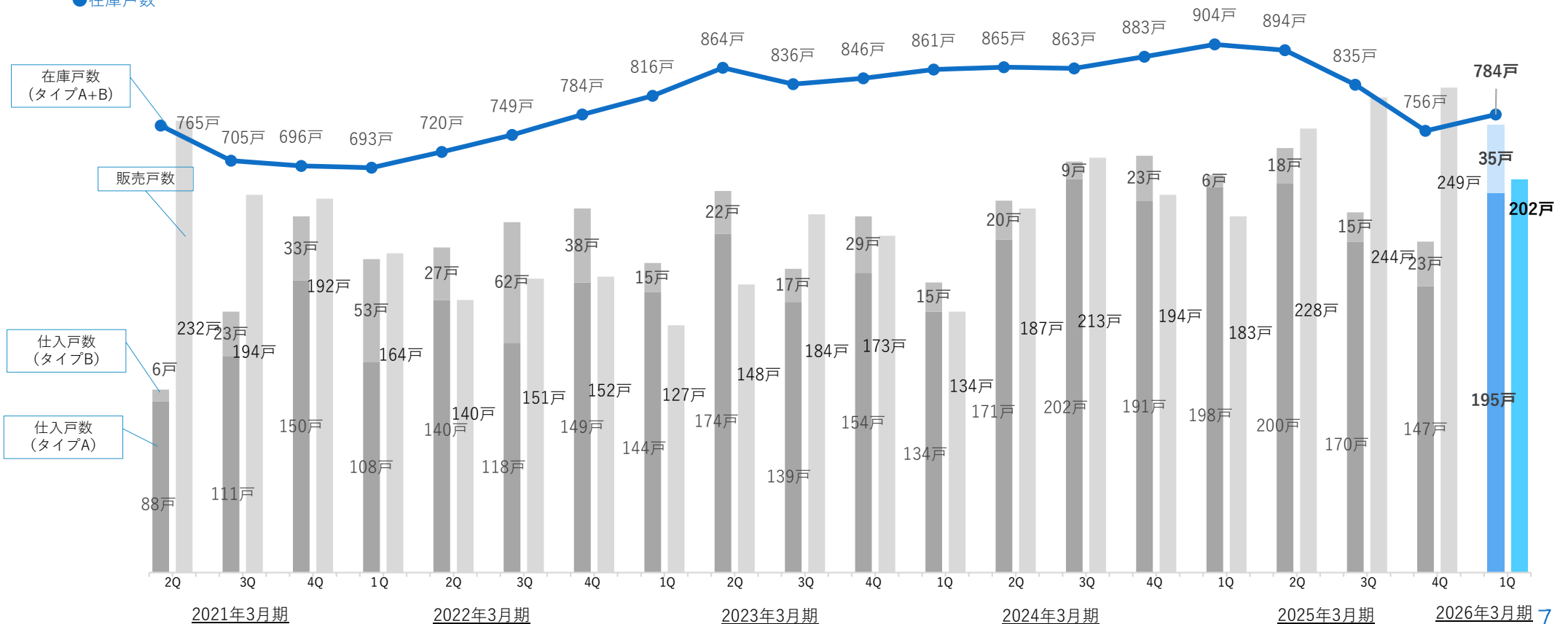
※タイプAは、賃借人なしの空室中古マンションを購入後、直ちにリノベーションを施し売却するケース

タイプBは、賃借人付きの中古マンションを購入後、一定期間賃料収入を得、賃借人の退去後にリノベーションを施し売却するケース

販売戸数、在庫数は、タイプAとタイプBの合計数

仕入戸数・販売戸数・在庫戸数の四半期推移

■ 仕入戸数 (タイプA)
■ 仕入戸数 (タイプB)
■ 販売戸数
● 在庫戸数



3-③. 不動産セグメント <EWアセットマネジメント> ー高齢者施設開発ー

▶ 福岡PJは2025年4月に開業後、順調に入居者が増加中。

	開発用地取得	開発	竣工	施設売却
福岡PJ (福岡県福岡市南区) 稼働施設保有中	23/6 出資		25/3 竣工	
杉並PJ (東京都杉並区) 稼働施設保有中	23/5 売買契約締結		24/2 竣工・出資	
熊本PJ② (熊本県熊本市東区) 稼働施設保有中	23/3 出資		24/9 竣工	
京都PJ (京都府京都市)	出資		2022/8 竣工	2023/2 売却
西宮PJ (兵庫県西宮市)	出資		2022/7 竣工	2023/2 売却
熊本PJ① (熊本県熊本市西区) 稼働施設保有中	出資		2022/5 竣工	
横須賀PJ② (神奈川県横須賀市)	出資		2019/11 竣工	2023/5 売却
横須賀PJ① (神奈川県横須賀市)	出資			2020/1 売却
川越PJ (埼玉県川越市)	出資			2019/12 売却
神戸PJ (兵庫県神戸市)	出資			2019/1 売却
江戸川PJ (東京都江戸川区)	出資			2019/1 売却
枚方PJ② (大阪府枚方市) *1			出資	2023/10 売却
枚方PJ① (大阪府枚方市) *1			出資	2020/1 売却

*1 稼働中施設を取得したため当社グループによる開発は行っていません。

4. 2026年3月期業績予想

▶ 証券関連事業

足元のＩＦＡビジネスを中心とした資金導入は近年のトレンドが継続し、基盤となる預り資産は増加するものの、世界経済の不確実性の高まりを背景としたマーケット環境の影響による収益性の低下を懸念しており、営業収益については前年度と同程度、営業利益以下の各段階利益についてもやや弱含むことを想定しております。

▶ 不動産関連事業

中古マンション買取再販事業では、前年度下半期に物件の仕入れ基準を厳格化する等、物件の買取を戦略的に抑制した一方で、販売が堅調に推移したことから、期初における販売在庫数（タイプＡ：空室物件）が前年度比21%程度減少し、営業利益以下の各段階利益についても減少する見込みです。

リノベーション事業では、マーケットの急拡大を背景に、外販（マイプレイス以外の買取再販事業者向けサービス）の完工数の大幅な増加（前年度比63%増）を見込んでおり、営業収益及び各段階利益ともに大きく増加する見込みです。

高齢者施設開発・運営事業では、前年度に売却を見込んでいた物件など数物件の売却を想定しております。

これらの結果として、全社の営業収益及び各段階利益について増収増益を想定しております。

	営業収益	営業利益	経常利益	税金等調整前 当期純利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
2026年3月期 通期予想(百万円)	63,000	4,900	4,400	4,400	2,700
2025年3月期 実績値(百万円)	56,484	3,725	3,890	3,871	2,632
増減率 (%)	11.5	31.5	13.1	13.7	2.6

5. 配当予想

- ▶ 2025年5月15日に開示しました「2026年3月期通期連結業績予想及び配当予想に関するお知らせ」に記載のとおり、2026年3月期は通期で25円（中間配当12.5円、期末配当12.5円）を予定します。
- ▶ 2019年3月期より、財務の安定と事業資金の確保に支障をきたさない限りにおいて、DOE（純資産配当率）は少なくとも4%以上の水準を維持し、ROE（自己資本利益率）が4%を上回る場合には、その部分の利益についても株主還元の原因とし、その一部を追加の株主還元に充当する方針です。
- ▶ 上記の方針に基づき、追加の株主還元については、今後の業績進捗状況を踏まえ、配当性向の水準等も総合的に勘案の上、検討してまいります。

なお、2025年3月期においては、2024年5月14日の配当予想発表時点では通期予想22.0円（中間配当金11.0円、期末配当金11.0円）としておりましたが、2025年2月14日の第3四半期発表時において、業績進捗状況を踏まえ通期予想28.0円（中間配当金11.0円、期末配当金17.0円）へと配当予想の修正（増配）を決定しました。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 予想
中間配当	10.0円	9.0円	8.5円	9.5円	9.5円	9.5円	11.0円	12.5円
期末配当	8.0円	11.0円	9.5円	8.5円	9.5円	11.5円	17.0円	12.5円
年間配当	18.0円	20.0円	18.0円	18.0円	19.0円	21.0円	28.0円	25.0円
DOE (%)	4.0%	4.8%	4.1%	4.0%	4.1%	4.2%	5.0%	4.0%
ROE (%)	8.9%	11.0%	10.5%	7.2%	5.5%	16.7%	15.5%	14.5%
配当性向 (%)	45.2%	43.1%	39.0%	55.0%	74.7%	25.4%	32.3%	27.7%

免責事項

本資料に記載されている予想・見通しは、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

本資料に記載されたデータには、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した公開情報の引用が含まれておりますが、当社がその内容の正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。